鳴り砂

2-070 号（通巻 249 号）2014. 5. 20.

発行●みやぎ脱原発・風の会
〈連絡先〉〒980-0811
仙台市青葉区一番町 4－1－3
仙台市市民活動サポートセンター内 LC No.76
電話＆FAX　022－356－7092（須田）
http://miyagi-kazenokai.com/
《郵便振替口座》02220－3－49486
会費●3000 円　賛同会費●1000 円／年

具体的な回答をしない東北電力に怒りの声

～東北電力への公開質問に対する回答交渉～

震災から３年と１か月にあたる４月 11 日、東北電力に質問書を提出していた３団体（女川原発の再稼働を許さない！2014 みやぎアクション、原発問題住民運動宮城県連絡センター、女川原発の廃炉を求める大崎連絡会）への口頭での回答があった。朝 10 時という時間帯にもかかわらず大崎からも多くの方が参加し、全体では 27 名もの市民の参加で東北電力本社に乗り込んだ。前回同様広報・地域交流部の相沢利之課長と、原子力部の小笠原さん、笠原さんが主に対応した。

みやぎアクションへの口頭回答は付録（「風の会 HP」参照）の通りだが、相変わらず具体的な数字はださず、また肝心なところでは言葉を濁すといった態度に、参加した市民からも「がっかりだ」「発災事業者としての自覚と責任がたりない」「新たな安全神話ではないか」「生徒会よりひどい」との声が相次いだ。当然、各団体とも納得がいかず再質問する方向だ。

東北電力の口頭回答を箇条書きにすると

① ひび割れなどは、法令にのっとって公表している
② ２号機は他号機に先駆けて耐震工事をしてきた
③ 基準地震動の策定は最新の知見をもとにしている
④ フィルター付ベント作動の際の放射能拡散シミュレーションは行っていない（作動の基準はある）
⑤ 自治体の防災計画・避難計画については協力していきたい
⑥ ＵＰＺ自治体との協定は、発電所の状況をよりご理解いただくことを目的に締結するものと考える（再稼働を含むかどうかに関しては協議中）
⑦ 高レベル放射性廃棄物の地層処分事業については、国民の理解を得られるよう取り組んでいきたい

というものだが、交渉ではこのうち①④⑤⑥が主に議論になった。このうち④については、これまで「冷やす・止める・閉じ込める」というキャッチフレーズで、「だから放射能は外部に漏らしません」と宣伝していたはずが、実は震災前から「過酷事故の時はベントをして放射能を外部にだします」といつの間にかなっていたという。また、フィルター付ベントが新たな基準で義務づけられたので設置はするが、実際に敷地境界などの環境にどれだけ放射能が放出されるのかについては具体的な回答がなかった。

福島原発事故で誰の目にも明らかになったことの一つは、「原発は過酷事故のとき放射能を大量に放出する」ということである。もちろん、「冷やす・

止める・閉じ込める」努力はすると思うが、それでも100%はないので、可能性としてシビアアクシデント対策が必須となった。というか、もともと必須だったのが、これまでアイマイにされてきたのだ。

フィルター付ベントをめぐるやりとりは、この「原発はいざという時放射能を放出する」という事実を、東北電力がリスクコミュニケーションとしてどう伝えていくのかが大きな課題であることを浮き彫りにした。

また、⑤については、そもそも原子力発電所が存在することが「原子力防災計画」を必要としている、という事実を東北電力が受け止めきれていない、という印象を参加者に抱かせた。「自治体の避難計画の作成には協力します」というのでは、やりとりでもあったが「発災事業者としての自覚」があまりにも薄い。「協力してあげます」といったような傍観者的な立場に立つことは許されるものではない。本来であれば作る必要のない「原子力防災計画」を、30ｋｍ圏内の自治体が呻吟して作成せざるを得ないのは、第一義に女川原発の存在故なのだ。そのことを考えること抜きに再稼働を議論することはできないことが、交渉を通じて改めて明らかになった。

⑥についても、「協議中」ということで、安全協定に再稼働の要件が入るのかどうかは、最後まで明らかにされなかった。「もっと上の責任ある人を呼んで」という声も上がったが、もともと質問項目にあったのに、回答が核心をはずしたものであったことが紛糾の原因である。

交渉の最後に古川の方からあがった「みなさんは福島で避難地区になった現地に行ってみたでしょうか？　事故原因がまだ究明されていない中での再稼働は、人間にとっての最大の屈辱です。このまま廃炉にしたほうが、地域経済を元気にするし、雇用も生み出し、持続可能な社会も生み出すのです」との絞り出すような訴えが、まさに参加者の総意の声である。さすがの東北電力も、「大崎の議会だけでなく、地域の方々が厳しい受け止めをしていることはしっかり認識しております」と、福島原発事故の被害に多くの方が苦しんでいる中での再稼働に否定的な声が多いことは認めざるを得なかった。

今回の回答を精査するとともに、設置変更許可申請書なども踏まえて、さらに東北電力を追及していく必要を改めて感じた。
（舘脇）

ー風の会　公開学習会 vol. 4 ー「放射能と私、医師として釣り師として～原爆から原発へ」

自分には何が出来るだろうかー貴重な学びの時間

４月 19 日（土）、私にとってはじめての風の会の学習会への参加となった日でした。同じ会場ではライブのイベントもあったようで、会場の仙台市民会館にはたくさんの人がいて元気な雰囲気につつまれていました。

今回の講演者水戸部秀利さんのお話は、被爆者に関わった医療者として、そして釣り師、つまりは「魚の代弁者」としての二

つの視点からのものでした。30～40人程が参加したようで、配布資料が足りず風の会事務局の方が増す刷りに行かなければならなくなるという盛況ぶりでした。

事前の案内では「学習というよりは交流会として」というお話だったにもかかわらず、蓋を開けてみると専門的（私の知識不足の可能性も高いです…）な内容の多い大変濃密な学習会でした。

内容を紹介すると、①原爆被害者のこと（被爆者医療の経験から）、②原発事故と放射能汚染、③海洋汚染への不安・怒り、④日本のあり方への思い　の四点を柱としたお話でした。

その中で私の印象に残ったお話としては、原爆被爆者の方の話と低線量被曝についての話が挙げられます。被爆者の方についての話では、被爆後すぐから50年後という長期にわたる期間において被爆者が発症した病気（白血病、固形がん、各種慢性疾患、骨髄異形成症候群（ＭＤＳ）の４つ）の変化が図で示されました。最初の10年くらいは白血病が中心でしたが、時を経るにつれ固形がんや慢性疾患などが増えてきていることが一目で分かり、被爆による影響は長期にわたって考えなければならないことがよく分かるものでした。こういった変化を図で示したものを見たのは初めてだったため、圧倒されてしまいました。こうした長期にわたる影響については、福島原発についても調査し結果を公開していく必要があるだろう、そのような思いを抱きました。

また、低線量被曝をめぐる議論についてのお話の中では、その影響についていくつかの説があることが示されると同時に、生体の修復能力による低減の可能性を基にしたＩＣＲＰの提言が取りあげられました。このＩＣＲＰの提言を用いて低線量被曝の影響について「確定できないほど軽微である」というところから、「大したことがない」ため「被曝基準を少し上げても大丈夫」というように世論誘導がされていることが指摘されました。私としては、こうしたリスクが選択の余地なく負わされている現状を見逃してはならないと思っています。低線量であろうとも、そうしたリスクは自らの選択がなされたうえで負うべきものではないでしょうか。

今、取りあげた話以外にも水産物における放射能の検出状況などの話もあり（途中で水戸部さんが釣りをしている時の写真や釣りについて熱く語る場面も…）、医者であり釣り師でもある水戸部さんならではの学習会だったのではないでしょうか。

日頃埼玉・東京では触れ難い情報も多くあった学習会で、慌ただしく飛び乗った新幹線で「自分には何が出来るだろうか」と問い直す、そんな機会となる学習会でした。貴重な学びの時間をありがとうございました！！　（埼玉・Ｕ）

＜安定ヨウ素剤ミニ知識＞

実際の服用となるとその実態は机上の空論

本年２月、宮城県防災会議では宮城県地域防災計画（原子力災害対策編）を策定した。その第２章に原子力災害前対策として、内部被ばく医療体制の整備、安定ヨウ素剤の予防服用体制の整備の項があり、以下のことが述べられている。

PAZ（予防的防護措置を準備する区域）内及びPAZ 外で必要とされる地域の住民等に対する安定ヨウ素剤の事前配布体制並びに PAZ 内の住民に対する緊急時における安定ヨウ素材の配布体制を整備し、安定ヨウ素剤の予防服用が行えるように準備しておくものとする。

そこで、安定ヨウ素剤について概略を簡単に述べたい。

１．安定ヨウ素剤と原子力防災

ヨウ素は同位体の種類が多く、その大半が放射性同位体として知られているが、自然に存在するヨウ素のほぼ 100%が安定同位体のヨウ素 127（^{127}I）であり、放射性ヨウ素に対し「安定ヨウ素」と呼ばれている。動物では甲状腺ホルモンを合成する際の原料としてヨウ素が蓄積される。

原子力災害により大気中に放射性ヨウ素が放出された場合は、放射性ヨウ素は、呼吸により吸入され気道に沈着し、気管支及び肺から迅速に体循環に移行し、また、吸入された放射性ヨウ素の一部は、咽頭部にも沈着し、食道を経て消化管から吸収され、体循環に移行する。取り込まれた放射性ヨウ素の約 10～30%は、24 時間以内に甲状腺に選択的に集積する。放射性ヨウ素の代表としてよく知られているヨウ素 131 の半減期は 8.1 日であり、β崩壊することで内部被ばくを起こす。ヨウ素の内部被ばくは甲状腺癌、甲状腺機能低下症等の晩発的な障害のリスクを高めることが、チェルノブイリ原発事故の調査結果によってもよく知られている。

大量のヨウ素を摂取した場合は、甲状腺にヨウ素が蓄積され、それ以降はさらにヨウ素を摂取しても、その大半が血中から尿に排出され、甲状腺に蓄積しないことが知られている。それを応用したのが、放射線被ばく予防のための安定ヨウ素剤の服用である。安定ヨウ素剤で甲状腺のヨウ素を満たしておけば、以降のヨウ素（放射性ヨウ素）の取り込みが阻害されることで、放射性障害の予防が可能になるとされている。この効果についてであるが、本剤の服用から１日程度持続し、後から取り込まれた「過剰な」ヨウ素は速やかに尿中に排出されるということである。（一部ウィキペディアから引用）

２．安定ヨウ素剤服用量

●服用回数

服用回数は効果が１日持続するので、原則１回とする。２日目は避難を優先させると「緊急被ばく医療研修会」では述べている通り、長期の服用は想定していないようである。

●服用量及び服用方法

安定ヨウ素剤として使用されるのは、医薬品ヨウ化カリウムの丸薬と原薬（粉末）である。

対象者	ヨウ素量	ヨウ化カリウム量	医薬品ヨウ化カリウム
新生児	12.5 mg	16.3 mg	調整液　1ml
生後１ヶ月以上３歳未満	25 mg	32.5 mg	調整液　2ml
３歳以上 13 歳未満	38 mg	50 mg	丸薬　１個 （調整液　3ml）
13 歳以上 40 歳未満	76 mg	100 mg	丸薬　２個 （調整液　6ml）

＊40 歳以上については、放射性ヨウ素被ばくによる甲状腺がん等の発生確率が増加しないため、安定ヨウ素剤を服用する必要はない。しかし、４０歳以上の服用も有用であるという論もある。妊婦は４０歳以上でも服用する。

＊乳幼児、障がい者など錠剤が飲めない人には調整液を服用させる。

●調整液

丸薬が飲めない人のために調整液を作製する。（丸薬は固く分割が困難、原薬は苦いため）

医薬品ヨウ化カリウムの原薬（粉末）を水（滅菌蒸留水、精製水又は注射用水）に溶解し、単シロップ（筆者注：ガムシロップ）を適当量　添加したものを用いる。

実務マニュアルでは、医師、薬剤師またはその指導により、清潔な容器、器具を使用して、５リットル（1～3 千人分）の調整液を作り、小分けして、各人に服用させるとしている。ヨウ化カリウムは室温で 24 時間は安定であるとされている通り、作り置きできる代物ではない。避難のさなか、混乱の中で調整液の作製は可能なのか、はなはだ疑問である。

放射線被ばくにより誘発される甲状腺がんの発生確率は、特に乳幼児において高くなるといわれているので調整液の準備は重要である。ヨウ化カリウムの丸薬は使用期限３年であるが、調整液に代わる長期保存できる製剤の開発が必須であると考えられる。

また、スイスではヨウ素を電力会社が配備しているが、日本ではあくまでも地方自治体であり、こういった点でも電力会社の責任が曖昧である。

３．予防服用のタイミング

放射性ヨウ素を吸入する前に安定ヨウ素剤を服用すると、甲状腺への取り込みを阻止できるといわれるが、24 時間前であれば 90%以上の抑制効果、吸入後であれば８時間後で４０%、24 時間後であれば７%の抑制効果しかない（緊急被ばく医療研修会より）。効果的な服用のタイミングがいかに難しいかということがよくわかる。

４．服用基準

服用基準について、IAEA は 100mSv、WHO は小児に関しては小児甲状腺線量 10mSv、アメリカでは介入開始線量 50mSv、カナダは 100 mSv、フランス 50mSv、イギリス 50mSv、日本は 100mSv としている。服用基準線量と言ってもあくまで積算線量を予測せねばならず、服用の判断は難しいと思われる。

服用指示について、原子力安全委員会の原子力防災専門部会、第 28 回被ばく医療分科会（2011 年 12 月７日）において、鈴木元（国際医療福祉大学教授）は「安定ヨウ素の服用基準は予測で動く。SPEEDI が活用されず、予測がきちんとしていなかったため、服用指示が出せなかった。」と述べており、原子力事故に際しての安定ヨウ素剤服用指示の困難さについて現実を語っている。

５．最後に

朝日新聞（2014 年４月 23 日朝刊）によると、原子力災害対策に熱心な新潟県においてでさえ、ヨウ素剤の配備を怠っていたことが報道されている。原子力発電所立地県では安定ヨウ素剤の配備が急ピッチで進められているが、今迄述べてきた通り、実際の服用となるとその実態は机上の空論であり、絵に描いた餅に過ぎないと考えられる。

一方、日経新聞（2014 年４月 30 日）によると、原子力規制委員会が、川内原発稼働のために、半径５㎞圏内の住民を対象に、医師立ち合いでヨウ素剤説明会を開催することを、地元自治体に求めていると報道されている。

原発稼働においては安定ヨウ素剤の配備が必須であり、そのための住民説明会も開催される。稼働のためのアリバイ作りの住民説明会にさせないよう、地方自治体に対して、安定ヨウ素剤の配備計画の内容、服用基準及びそのタイミング等の詳細を明らかにさせる必要があると考える。

（M.U）

原発問題の"ミニミニ"解説〈4〉

女川原発再稼動と地域防災計画

原子力災害対策特別措置法（原災法）では、第１条（目的）において「この法律は、原子力災害の特殊性にかんがみ、原子力災害の予防に関する原子力事業者の義務等…原子力災害に関する事項について特別の措置を定めることにより…原子力災害に対する対策の強化を図り、もって原子力災害から国民の生命、身体及び財産を保護することを目的とする。」とされ、第３条（原子力事業者の責務）で「原子力事業者は、…原子力災害の発生の防止に関し万全の措置を講ずるとともに、原子力災害…の拡大の防止及び原子力災害の復旧に関し、誠意をもって必要な措置を講ずる責務を有する。」とされています。

そして、第２章「原子力災害の予防に関する原子力事業者の義務等」において、第７条（原子力事業者防災業務計画：筆者注「業務計画」と略す）の１項で「原子力事業者は…「業務計画」を作成し…なければならない。この場合において、当該「業務計画」は…地域防災計画…に抵触するものであってはならない。」と規定され、第７条２項で「原子力事業者は…「業務計画」を作成し、または修正しようとするときは…あらかじめ…管轄する都道府県知事、…管轄する市町村長…に協議しなければならない。この場合において、所在都道府県知事…は、関係周辺市町村長（…当該原子力事業所に係る原子力災害に関する地域防災計画が作成されている…市町村の市町村長（所在市町村長を除く）をいう。）の意見を聴くものとする。」とされています。さらに、第７条４項では「主務大臣は、原子力事業者が第１項の規定に違反していると認めるとき、又は…原子力災害の発生若しくは拡大を防止するために十分でないと認めるときは、原子力事業者に対し、「業務計画」の作成または修正を命ずることができる。」とされています。

また、同法施行令では、第２条１項で「法第７条２項の規定による協議は、「業務計画」を作成し、又は修正しようとする日の６０日前までに、所在都道府県知事、所在市町村長…に「業務計画」の案を提出して行うものとする。」とされ、同条２項で「所在都道府県知事…は、法第７条２項の規定による意見の聴取を行うため…「業務計画」の案の写しを関係周辺市町村長に送付するものとする。」とされています。

女川原発再稼動に際して、法第７条１項の「地域防災計画と抵触しないこと」という規定は、非常に重要になると思います。そもそも「抵触」しているかどうかを（最終的には主務大臣が？）判断するには、所在県・市町村のみならず関係周辺市町村の地域防災計画のいずれも「確定」している必要があると思いますが、こと女川原発に関しては、肝心の地域防災計画の全てが確定していませんので（原子力規制委員会の作成指針さえ未確定部分があるので"当然"ですが）、東北電力「業務計画」の抵触の有無確認はできないはずです。そして、地域防災計画の全てが揃った段階で初めて東北電力は、それらと抵触しないと考える「業務計画」を作成（修正）することができ、その案を宮城県・女川町・石巻市へ提出し、宮城県知事は関係周辺自治体へ送付し、意見聴取や協議を経て、ようやく「業務計画」の内容を確定できるのです。そして、さらにそれを国に提出し、主務大臣によって抵触なしと最終的に判断されなければ、女川原発２号機再稼動の"前提の一つ"である原災法第７条１項の「業務計画」作成義務を果たしたことにはなりません。

福島原発事故の教訓の一つは、事故時に周辺住民（災害弱者と言われる高齢者・病院入院患者や介護施設入所者、妊産婦・乳幼児その他を含む）の１人たりとも被曝しないような適正・具体的な避難計画・地域防災計画を"予め＝原発再稼動に先立ち"作成しておくことだと思いますが、地域防災計画と「業務計画」の作成過程についても、原災法の規定する一つ一つの手順を東北電力・立地自治体・周辺自治体および主務大臣がきちんとクリアしない限り、女川原発の再稼動は"法的に"認められない、ということになるのではないでしょうか。

（＊上岡直美「原発避難計画の検証」合同出版（2014）p.42 の記述に触発され、素人なりに原災法を読み直してみました。誤解があればご指摘下さい。）　〈2014.4.13 記〉

（仙台原子力問題研究グループＩ）

今年は「脱原発会社宣言」の株主提案

19年連続、株主221名・296,100株で

4月6日（日）、脱原発東北電力株主の会は、昨年の提案株主と昨年夏議決権行使書を閲覧・謄写して賛同を確認した株主約730名に、「ご協力のお願い」「株主提案議案」「合意書」「株主提案マニュアル」「個別株主通知申出書及び送付先指定書」「返信用封筒」を郵送しました。

今年も、全国証券業協会の共通「個別株主通知申出書」に「送付先指定書」を添付し、各株主さんに証券会社等に「個別株主通知」の手続きをしてもらい、大半の証券会社からは直接事務局に「受付票」を送ってもらいました。ところが、証券会社によっては事務局に返送せず株主さんに「受付票」を送付したり、株主さんも記載もれや届け出印なし等があり、事務局は20通もの郵送作業などの対応に追われました。

しかし、今回は、「ご協力のお願い」発送前に自主的に証券会社に「個別株主通知」の手続きをしている株主さんもいらしゃったりして、こちらの準備が遅れたにもかかわらず、新しい株主さんも34名ほど増え、最終的に235名の方から賛同を頂き、4月14日（月）と21日（月）に「合意書」「受付票」を仮提出。ところが、東北電力には「証券保管振替機構（ほふり）」から個別株主通知が到着済なのに、本人確認書類（受付票等）の提出のない株主が10名いることが分かり、急遽「お願い文」を郵送し、25日（金）に株式課交渉を行い、受付票等の到着を待って貰うことになり、「資格審査」はぎりぎり30日の提案日まで縺れ込みました。今回、「個別株主通知期限切れ」や「期間要件未達」はなかったのですが、「合意書」だけで「個別株主通知未着」「本人確認書類なし」の方達等がいて、最終的に221名・296,100株の共同提案となりました（昨年は235名・318,000株）。

4月30日（水）午後1時、東北電力本社で株式課に「株主提案議案」「株主提案権行使請求書」等を提出・受理され、午後2時から県庁で記者会見を行いました（5名参加）。提出の様子等を県内3社のテレビ局が取材し、夕方の県内ニュースで放映され、『河北新報』等でも報道されました。

昨年の株主総会には「女川・東通原発廃止」を提案したものの、取締役会の反対で否決されましたが、青森市と宮城県美里町が賛成して下さったほか、明確に反対せず棄権した自治体もありました。

今年の株主総会では、「脱原発会社宣言」「将来的な需要の変動を見据えた長期的な電力供給計画を策定・公表」「経営および事業に関する情報公開」の3議案と、事前質問書を基に、「原発再稼働中止ー廃炉」を経営陣に迫って行きます。（空）

東北電力㈱第90回定時株主総会
6月26日（木）午前10時
電力ビル7階電力ホール

「４．９反核燃の日」に参加して

私たちはどこまで「我がこと」として考えているだろうか

４月５日、青森市で開催された「４．９反核燃の日」イベントに岩手より参加させて頂きました。５日（土）午前は市民ホールにて市民集会、午後は青い森公園に場所を移し全国集会とデモが行われ、６日（日）は六ヶ所村の再処理工場に集合し抗議行動。私は残念ながらこちらは参加できなかったのですが、両日とも時折あられ交じりの冷たい風が吹きつける中、大勢の方が参加し抗議の声をあげました。

５日午前の市民集会には 100 名を超える市民が参加。北海道・泊原発の地元である岩内町の町議・佐藤英行さんのお話、さらに三沢の山田さんより下北の状況報告、また函館市より、大間原発建設凍結のための提訴をしている市民団体の竹田さん、函館市のみちはた議員が駆け付けました。函館市は本年４月、はじめて「行政として」提訴を決定しており、みちはた議員もその際の市長会見に同席。提訴の採決に関しては市議会の全会派が同意したとのことで、会場の参加者からも感嘆の声が上がりました。

そして午後からの集会とデモには制服向上委員会の皆さんがゲストとして参加くださり、約1200 名が集まり、青森市内に抗議の声を轟かせました。

私は「４．９反核燃の日」イベントは初の参加、恥ずかしながら青森県自体、学生時代に弘前の桜まつりに行ったなどでしか訪れたことがなく、もちろんこのような集会に参加したのは初めてでした。原発事故が起きるまでは六ヶ所の再処理工場のことも「存在する」ことは知ってはいたもの、それが具体的にどういうことなのかも全く知識がありませんでした。ただ、東京在住中ＩＴ関連の仕事をしていた頃に、(今思うと文科省関連だったのか？）ホームページ制作を請け負った代理店の営業マンから「再処理」という言葉とイラストを資料で見せられたことがあり、再処理の技術で日本が世界をリードする、日本の科学技術は世界一！といった言葉が並んでいて、「それなら交通の便もいい関東や関西に作ればいいのに、何故こんな遠い東北の外れにわざわざ作るんだろう？」と違和感を抱いたことを憶えています。(当時一緒に説明を聞いた仕事仲間は、東京出身だったせいかピンとこなかったし、何の違和感も感じなかった、「ふーんそうなんだ」という感想しかなかった、とのこと。結局この案件は企画倒れで、制作には至らなかったのですが・・・）

原発事故後、鎌仲ひとみ監督の「六ヶ所村ラプソディー」を観て初めて、岩手で育った自分にとって青森はすぐ隣の県でありながら、こんなにも意識の上では遠いところであったのかと、自分の無知・無関心さに驚き恥ずかしく思ったものでした。しかしまた同時に、同じように事故後被ばく問題を熱心に調べている仲間（特に母親同士）の間でも、何故か「再処理」「大間（フルＭＯＸ）」の話は滅多に出てこないことにも気が付きました。恐らくは、被ばく問題を調べている自分たちにとって「再処理」という問題自体が何やら難解なこと、目に見えて今、再処理工場の存在によって何らか被害がもたらされている実感がないこと、そして、それ故なのか意図的になのか、岩手という土地に住んでいると普通には「六ヶ所」や「大間」といった情報は入ってこない、という現実があるからなのか？と感じていました。

今回初めて青森で集会やデモに参加し、参加の方々の熱気やその気迫にまず圧倒されました。私は盛岡で毎週金曜日、脱原発デモの実行委員として活動してきましたが、青森でのデモや集会の空気からは非常に切迫感・切実さが伝わってきて、同じデモでも盛岡はなんと平和なのだろうと改めて感じましたし、集会で東北だけでなく、海を挟んだ北海道函館市の市民団体のみならずいよいよ函館市も行政として訴訟に名乗りを上げたこと、函館市議会の採決は会派を超えて全会一致で可決されたことなどを見聞きするにつけ、「隣接県」である岩手ではどこまでこの問題を切迫感をもって考えているだろうか、私たちはどこまで「我がこと」として考えているだろうかと、改めて感じました。

遅きに失したとはいえ、今回「反核燃の日」に参加でき本当に良かったと思います。自分の足で訪れ目で見て場の空気を感じることで、頭ではなく肌でその「空気」「重さ」を多少なりとも自分なりに感じることが出来ました。六ヶ所での抗議行動に参加出来なかったのはつくづく残念ではありましたが、今は少しでもこの「感覚」を仲間たちに伝えていきたい、そして今後も「我がこと」と受け止め勉強していきたいと思っています。

（さくま）

“サクラと原発”調査報告

8回目の女川原発さくら調査をおこなって

2014年女川原発そばサクラ調査結果

4月20日（日）、お天気に誘われて？恒例の女川原発近くの女川町塚浜集会所（西北約1km）でサクラ調査をしました。結果は以下の通りです。

	調査数	異常数	異常率	
№1	300	15	5.0	%
№2	195	2	1.0	%
№3	251	7	2.8	%
№4	312	14	4.5	%
計	1058	38	3.6	%

●異常の内容
（1個の花で2種の異常が見られたものもあります）
・花弁重なり　1個
・花弁変形（花弁の矮小・ねじれ等）31個
・がくの花弁化 2個
・花弁6　1個
・がく3以下　1個
・がく4　3個

【花びら矮小化】

【花びら矮小化】

【がくの花びら化】

●特徴的には
・福島原発の事故前と後で、見立った変化はない。
・枝によって、異常が多い箇所がある（№1とNo.4の一部）。
・異常は花弁変形が多く、以前見られた「おしべの花弁化」は無かった。
・異常とまではカウントしていないが、ほとんど満開なのに、まだ開いていない（開く気配がない）花もそこそこ見受けられた。

今年はTさんにお手伝いしていただいて調査が実現しましたが、来年はどうなることやら。お手伝いして頂ける方がいればやりますので、お声掛けよろしくお願いします！
（女川原発サクラ調査隊　たてわき）

「さようなら原発 in いしのまき 2014」

いしのまきに来てけらいん

6月8日（日）、石巻中央公民館で行われる「さよなら原発 in いしのまきのつどい」で、あさこはうすの小笠原厚子さんに来ていただき、お話を伺います。あさこはうすとは、太陽光発電パネルや風力発電設備を設置し、ライフラインはなくても住めるように整備を進めている、青森県大間町にある故熊谷あさこさんの家で、現在は娘さんの厚子さんが所有・管理しているログハウスです。あさこはうすは、電源開発（J パワー）による大間原発建設敷地内のほぼ中心部にあり、未買収の民有地です。生前、あさこさんは長年にわたり、どんなに大金を積まれてもついに土地売りませんでした。他の要因もありましたが、用地買収が難航したために、計画は何度も延期され、着工や運転開始も大幅に遅れました。たった一戸のあさこはうすのために、大間原発の炉心位置は当初の計画から変更され、およそ 200m移動されたのです。

J パワーは、原発については何も蓄積（ノウハウ）もなく、水力発電や送電施設専門の国策会社でした。原発を造ったこともないこの会社が、プルトニウムを高い濃度で混ぜた核燃料を（実証炉でもなく）いきなり商業炉で使用するという、プルトニウム消費だけを主目的とした、大変危険な原発の建設が 2008 年に始まりました。

2011 年３月 11 日の東京電力福島第一原発事故後、工事は中断していましたが、2012 年 10 月工事は再開されました。原子力発電の安全神話、擬制（フィクション）が大きな轟音を発し、崩れ落ちていたにもかかわらず、同年９月経産大臣枝野氏が、（建設後の）稼働の判断は当時発足もしていなかった原子力規制委員会に丸投げした上で、建設容認を表明したからでした。立地自治体にとどまらない、住民や利害関係者などの広範な合意形成や、国民的な再稼働反対の世論の高まり、核廃棄物処理やエネルギー政策など、様々な将来的課題や議論に正面から向き合うことなく、既成事実だけを作るという、極めて旧来的で小手先の手続きによって、いまも大間原発の建設が続けられています。

厚子さんのお父さん（故人）で漁師だった彼は、「畑と海があれば人は生きていける」という言葉を遺されたそうです。湯水のようにつぎ込まれたお金で作られた大きな声や宣伝（広告）ではなく、たとえどんなに小さくても、この辺境と呼ばれる地で、自然と仲良く暮らしてきたおじさん、おばさん（お姉さん？）から、私はたくさん学びたいです。そして来場される方々にも、厚子さんのお話を聞いていただきたいと、心から感じています。

同じ東北とはいえ、本州最北端の本当に遠いところから来られます。小ぢんまりとではなく、どうせならワーッとたくさんの方たちと一緒に小笠原厚子さんをお迎えしたいです。そしてもお話を聞いた後は、石巻市内でのアピール行進を予定しています。金曜デモなど各地では恒例となりましたが、甚しい津波被災のあった石巻では、3.11 後おそらく初めてです。石巻を中心とした方々が時間をかけて、このつどいとアピール行進を準備してきました。不慣れな点もあるかもしれませんが、大間でも女川でも福島でもどこであっても、原発がなくても、幸せに暮らしていけるよう、みんなでアピール行進をしたいです。

皆様のご支援ご参加をお願い致します。
（さよなら原発 in いしのまき 2014 実行委員
服部賢治）

「さようなら原発 in いしのまき 2014」
日時□6 月 8 日（日）AM10:00～PM4:00
会場□石巻中央公民館大ホール
●午前の部　AM10:00～PM12:30　出店
音楽会　苫米地サトロさん
渋谷修治さん、ボンズさん
（入場無料）
●午後の部　PM1:00～PM3:30 報告・講演の集い
「福島と大間、そして女川原発地元をつなぐ」
石丸小四郎さん「福島からの報告」
鎌田慧さん（「さようなら原発
一千万署名市民の会」呼びかけ人）
小笠原厚子さん「大間原発反対」
（チケット代 500 円）
●市内アピール行進　PM3:40～PM4:40
主催□さようなら原発 in いしのまき
実行委員会
（問い合せ）TEL/FAX 0225－94－1041（近藤）

今、女川では

女川町議会議員　阿部美紀子

その6. 楽しいところに人は集まる

４月末から５月にかけて、女川は祭りの季節となります。４月 29 日の竹浦、５月３日女川町内のお祭りには、京都、四日市、東京方面から沢山のボランティアの方が来てくれ、地域医療センターの院長先生、そして私の娘の連れ合いも一緒に６時間も御神輿を担ぎ通しました。

竹浦で御神輿を担いだ人から、「掛け声が変わっていますね」と言われ、女川の“チョーサイ”という掛け声は、“除災・ジョーサイ”が訛ったものだと思いますよと告げると、その人は「チョーサイド」と聞こえたそうで、横に広がっているから、広がるなという意味だと思っていたと笑っていました。

震災直後、見知らぬ人同士が助けあった、あの有難みを骨身に染みて感じた私にとって、震災後、人々が各地でお祭りや獅子舞などの伝統文化の復活に一所懸命になるのは、「神事」というよりも、１つのことに皆で力を合わせる、人との繋がり、気合の顕れのように思えます。

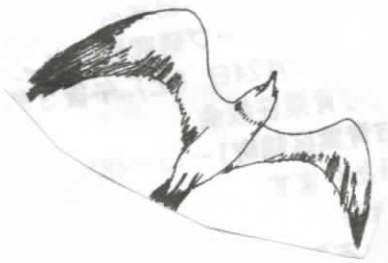
小出裕章さんのお話を聞いてほしい。加藤登紀子さんの歌を聴いてほしい。女川を見てほしい。そして原発のない新しい女川を創っていきたい。脱原発の潮流を堅苦しいものではなく、楽しいお祭りにしていきたい。

私のこういう思いは、中越地震で被災されたご老人の「楽しいところに人は集まる。自分が楽しくないと続かない。」という教えによるものです。その大らかな考え方は、私を随分と気楽にしてくれました。

「女川から未来を考えるつどい」は、困難だらけです。それでも、皆が智恵や情報を出し合い、それを行動に移し、少しずつ形が現れてきました。５月 18 日には素敵なポスター、チラシ、チケットもできあがります。

皆さん、是非女川にお出で下さい。一緒に楽しみましょう。

女川で待っています。



「女川から未来を考えるつどい」
加藤登紀子トーク＆ライブ With 小出裕章

日時□8 月 10 日（日）14 時～17 時
会場□女川町総合体育館（1000 人）
チケット 1000 円
主催□女川から未来を考えるつどい実行委員会
（実行委員長　阿部美紀子）
問合せ 090-1107-6894 荒井

●賛同金募集中！
一口　個人 1000 円　団体 3000 円
郵便振替口座　02270－7－114626
女川から未来を考える会

●『鳴り砂』／踏みしめればキュウキュウとこたえる“鳴砂”でおおわれた美しい浜を人々は“鳴浜”と呼んだ。今この鳴浜に、女川原発の建設・運転が強行された。原発の下で永遠に声を奪われてしまった鳴砂の悲しいなき声が胸のうちにひびきつづける。

●『鳴り砂』はここにあります
仙台市市民活動サポートセンター、
みやぎＮＰＯプラザの各情報コーナー
※宮城県立図書館の郷土資料室にて、
『鳴り砂』全バックナンバー閲覧可能

【インフォメーション】

第88&第89回
大飯を止めろ！女川再稼働するな！
子供を守れ！汚染はいらない！みやぎ金曜デモ
In 仙台　（略称：脱原発みやぎ金曜デモ）
https://twitter.com/miyagi_no_nuke
http://twipla.jp/events/27716
日時□5月23日（金）肴町公園
　　5月30日（金）肴町公園
（金曜夜は18時集合18時30分デモ出発）
主催□みやぎ金曜デモの会（代表　西）
（090-8819-9920　電話は20時～22時まで）
e-mail:miyagi.no.nuke@gmail.com

宮城県子どもの被ばく線量調査研究中間報告
講師□吉田浩子氏
（東北大学大学院薬学研究科
ラジオアイソトープ研究教育センター講師）
日時□2014年5月24日（土）午後3時～5時
会場□仙台青葉荘教会
（仙台市青葉区錦町1－13－48）
＊駐車場あります
参加費 無料
（申し込み不要・当日直接会場へ）
＊託児ありお電話にてお申し込みください。
主催□日本キリスト教団東北教区
　　放射能問題支援対策室いずみ
TEL/FAX 022－796-5272
E-mail： izumi@tohoku.uccj.jp

記念講演「福島第一原発事故と日本病
一世界から見た日本の現状」
講師□村田光平氏（元スイス大使）
日時□5月31日（土）17：10～18：50
会場□仙台ガーデンパレスホテル
参加費□無料
主催□宮城県保険医協会
問合せ☎ 022-265-1667　FAX 022-265-0576

女川原発の設計者がお話しします
一女川原発の再稼働に反対する7つの理由
講師□渡辺敦雄氏
日時□2014年6月1日（日）14時
会場□仙台弁護士会館4階大ホール
資料代□1000円
【連絡先】原発問題住民運動
　　宮城県連絡センター事務局
電話022-234-1335（宮城高教組内）

大MAGROCK VOL7
日時□7月19日（土）正午～
問合せ PEACE LAND ☎090-8613-3269

第7回大間原発反対現地集会
日時□7月20日（日）11時30分～
会場□大間原発に反対する地主の会・所有地
主催□大間原発反対現地集会実行委員会
　　☎080-604-5089 中道

【編集雑記】

●3月19日、登米市が、東京ガス等が出資する特定規模電気事業者（新電力）のエネットと、市役所本庁舎等33施設に2014年度1年間電力を供給する契約を締結。東北電力と比べ、基本料金を11%安く抑え、年間で約370万円の経費削減を見込む。電気料金の値上げで顧客の流失が加速し、原発を保有する電力会社9社と契約を打ち切った企業や自治体が2013年度1万4400件に上った。うち、東京電力は約8450件120万kwと原発1基分も。2016年には家庭向け市場も全面自由化される予定で、原発に固執する電力に未来はない。（空）

【もくじ】
●具体的な回答をしない東北電力に怒りの声 ……1
●自分には何が出来るだろうか
　一貴重な学びの時間 ……2
●安定ヨウ素剤ミニ知識 ……4
●女川原発再稼動と地域防災計画 ……6
●今年は「脱原発会社宣言」の株主提案…7
●私たちはどこまで「我がこと」として
　考えているだろうか ……8
●8回目の女川原発さくら調査をおこなって ……9
●いしのまきに来てけらいん ……10
●今、女川では ……11
●インフォメーション・編集雑記 ……12

【別冊もくじ】
●「袴田事件」と
　「STAP（スタップ）細胞」 ……1
●微かな希望と頽廃的な廃炉作業 ……3
●安全性向上とテロ対策の矛盾
　＝原発の“本質・正体” ……4
●女川原発アラカルト ……7